



町の子供は町で育てる

「3つの合言葉」元氣・学び・会話

滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

そうだ！ 図書館へ行こう。

我が家では、数年前からある動画配信サービス会社とサブスクリプション契約しています。妻は韓流ドラマにはまり長時間視聴しているようですが、私も時々、映画を鑑賞しています。先日は、キアヌ・リーブス主演の『ジョン・ウィック：パラベラム』というアクション映画を観ました。たしかニューヨーク公共図書館で、キアヌ・リーブス演ずるジョン・ウィックと殺し屋が、格闘するシーンがありました。図書館の書架の間で格闘するのです。でも、結構長い時間殴り合ったり、刺し合ったりするのですが、その間、誰も他の人はその場に現れないです。闘っている二人は本棚にぶつかるわ、机は壊すわ、大騒ぎしているのに誰も他の人は現れない。それどころか、図書館の本の中に私物を隠しているのです。ジョン・ウィックは、誰も借りそうもない本をくりぬいて、十字架や金貨を隠していました。つまり、映画における図書館の基本設定が、「そこで格闘していても誰も気がつかない」「何年も誰も借りない本がある」ということになっているのです。要するに、基本的に図書館というのは人がいないものなのだ、という設定をこの映画は採用しているわけです。私の経験は、この基本設定を支持します。

私自身の「図書館の思い出」は、人気のない書架の間をこつこつと靴音を立てながら長い時間歩いていたことです。左右を見回すとどこまでも続く書架に無数の本が並んでいる。でも、そのほとんどについて私は書名も著者名も知らない。ここにあるほとんどの本を読むことはないまま死んでいくんだろうな...そんな記憶です。

「図書館はそこを訪れた人たちの無知を可視化する装置である」という言葉がありますが、先日の毎日新聞のコラムで、宇宙の神秘について尋ねられたときのアインシュタインの言葉が紹介されていました。「私たちは、まるで小さな子どもが天井までびっしりとさまざまな言語の本で埋め尽くされた巨大な図書館に足を踏み入れたような状態にある」というものでした。「これは、真理にたどりつく難しさを表現したのだろう」とコラムでは述べられていましたが、アインシュタインも図書館で「私は何も知らないのだ」という思いを持ったことがあるということなのでしょう。

「自分はわかっている、できている」という人は、学ぼうとしないものです。図書館は「自分がどれほどものを知らないのかを教えてくれる場所である」ということです。だから、そこでは肅然と襟を正して、「寸暇を惜しんで学ばなければ・・・」という決意を新たにす。図書館の教育的意義はそれに尽くされるだろうと思います。

私もそうでしたが、受験勉強などの場として図書館を選ぶ人も多いと思います。「静かで、落ち着いて・・・」という理由だけでなく、図書館に来ると自然に学習意欲にキックが入るということもあるのではないのでしょうか。

この夏、図書館を訪れてみませんか。「あなたが絶対に知るべき唯一のものは、図書館の場所」これもアインシュタインの言葉です。

図書館からのおすすめ絵本



図書館では、家族と一緒に本を読むことで、読書に親しんでもらうとともに、家庭内のコミュニケーションを深めることを目的とした「家読」(家庭読書)を推進しています。子どもも大人も楽しめる、家読にぴったりの絵本をご紹介します♪



『ぼくにげちゃうよ』
マーガレット・ワイズ・ブラウン 文
クレメント・ハード 絵
岩田みみ 訳
ほるぷ出版

『ぼくにげちゃうよ』

こんな人におすすめ

親子で楽しめる本をお探しの方！

子うさぎは、ある日、家を出てどこかへ行ってみたくなりました。「ぼくにげちゃうよ」と言って、魚や小鳥など色々なものに姿を変えて逃げる子うさぎと、「だって、おまえはとってもかわいいわたしのぼうやだもの」と優しく言って追いかける母うさぎ。2匹の追いかっこは続きます。微笑ましい2匹の会話とユーモラスのあるイラストに癒される1冊です。1942年に初めて出版されてから長い間親しまれている人気の絵本で、親子での読書時間にもぴったりです。

※この本は、滑川町立図書館に所蔵があります(貸出中のときは予約ができます)

新シリーズ
第6回

「滑川町の歴史」 part 6

弥生時代の滑川町 ～縄文と櫛書の器～



弥生時代は一般的に早期、前期、中期、後期の4時期に区分され、約2,800年～約1,800年前までの約1,000年間続きます。滑川町では、後期の遺跡のみが確認されています。

滑川町で見つかった弥生土器は、弥生時代後期の吉ヶ谷式と呼ばれる型式のものがほとんどで少量岩鼻式と呼ばれる型式など他の型式のものが混ざります。吉ヶ谷式土器は、弥生時代後期の土器で、特徴は目の粗い縄文が土器の上半部につけられ、土器を作る際に粘土を積み上げた痕跡が残ることです。岩鼻式土器も、弥生時代後期の土器で、櫛状の工具を使いつけられる櫛描文が特徴です。



吉ヶ谷式土器(羽尾 大谷遺跡)



岩鼻式土器(和泉 船川遺跡)

いずれも後期の土器ですが、岩鼻式は後期の半ば頃まででその後吉ヶ谷式に変わっていく傾向があります。これは、信州地方などの土器の影響を受けている岩鼻式と南関東や東関東の土器の影響を取り入れていると考えられる吉ヶ谷式土器の関係から交流する地域などの変化があったことなども考えられます。

滑川町では弥生時代の遺跡として、山田にある新井遺跡や羽尾にある大谷遺跡などがあります。